

## 29 獅子 香取正彦 一点

昭和四十七年（一九七二）  
銅・鑄造 六・七×一七・四×二一・八

四肢を踏ん張って虚空へ向かって吠えるライオンのブロンズ像である。毛というよりも様式化された葉叢のようなたてがみや、余分な装飾を除き比較的簡素に表現された体部など、わが国在来の獅子の表現とは異なる造形感覚を見て取ることができる。作者による箱書には「獅子」とあり、三越創業三百年記念として製作された秩父宮家旧藏品である。香取の著書『鑄師の春秋』（日本経済新聞社、昭和六十二年）によれば、アッシリア美術の獅子のレリーフを参考にしながら、多摩動物園にも足を運んでモデルとなるライオンを写生したということである。腹部裏に「正彦」の鑄造銘がある。

香取正彦（一八九九〜一九八八）は近代の著名な鑄金家として知られる香取秀真の長男で、父とともに各地の梵鐘等の調査を行い、梵鐘制作においても姿形の美しさとともに音響にもこだわりを持っていた。昭和五十二年に重要無形文化財「梵鐘」の保持者に認定された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections